

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

基山草スキー再生プロジェクト

※基山=きざん 基山町=きやまちょう

2 地域再生計画の作成主体の名称

佐賀県三養基郡基山町

3 地域再生計画の区域

佐賀県三養基郡基山町の全域

4 地域再生計画の目標

基山町は、福岡県筑紫野市と小郡市に隣接する佐賀県の東の玄関口で、古くは長崎街道をはじめ、現在では国道3号、九州自動車道、JR鹿児島本線が通るなど、九州の交通の要衝となっており、古来から多くの人々が行き交っている。

昭和46年発行の「基山町史」では、史実と伝説に富む史跡伝説地として語られている。神話では、五十猛神（イソノタケル）という神と村娘が契山の山頂で夫婦の契りを結んだ「契山伝説」が伝えられ、古代史には、663年の白村江の戦いに敗れ大宰府防衛施設の建造のため築造された、古代朝鮮式山城「基肄城」が記されている。基肄城は、基山山頂にあり、大野城とともに我が国最古の山城といわれ、山全体の地形を使い周囲4キロに城壁を廻（めぐ）らす壮大なものであった。平成27年10月には基肄城築造1350年を記念し「古代山城サミット」を開催したところである。また日本書紀では、「五十猛神は、天降りする時に多くの樹種を韓国に持っていったが、韓国には殖えずに持ち帰り、筑紫から始めて各地に植えた」とあり、昭和63年基山山頂付近に「日本最初の植林地 基山」の碑を建立している。

更には、先の基山町史（昭和46年）では、基山を「現在は単なるハイキング、ピクニックのみならず九州随一のローンスキー場として知られ、年間数十万人の登山客を迎えている」と記載があるところである。

しかしながら、歴史と観光名所として知られた基山・基肄城・基山草スキー場も、近年では訪れる人も当時からして激減しており、折角の資源が有効に使われていない状況である。

このことから、平成27年の基肄城築造1350年事業で、「草守基肄（くさすきい）大会」を実施したところ、多くの参加者があり、昔を知る高齢の方からはノスタルジーとともに、草スキー※の再興を求める声が多かった。そこで平成28年には「草守基肄世界大会2016」と銘打って、外国人の参加を含め開催し、観光コンテンツとして育成していくことに確信を持つとともに、再興に向けた取り組みをはじめたところである。

※基山町では、「木製そり」を使った斜面の滑走を「草スキー」と昔から呼んでいる。

取組みを始めた中で課題となっているものは、新たな観光拠点としての再設定とアクセス道路の改善であるとともに、草スキー場自体が荒れていることから草スキー場の再整備が必要となっていることである。

観光拠点としての再設定については、平成 28 年度、地方創生加速化交付金事業「魅力ある空間形成プロジェクト」において、町内散策ルートの設定や映像コンテンツによる発信、観光案内サイト・観光サインの構築等を行い新たな観光拠点として認知される取組みを行っている。

また、アクセス道路の改善については、基山町の発展に向けた交通ネットワークの整備として、基山 P A と北西部にある基肄城跡、基山（きざん）と中心市街地を接続する道路網を、観光客が周遊するための道路ネットワークの整備として行う予定である。

上記の対策を実施するとともに、草守基肄世界大会の開催を通じ草スキーの再認知とそれによる利用者の増加が図られれば、ますます草スキー場の再整備が必要になってくる。

4－3 計画の目標

上記の現状と課題を解決し、基山草スキーを再生するため、本計画では、荒れている草スキー場の草の養生を含めた再生や幼児に対応したコースやロングコースといった新たな魅力あるコース設定による草スキー場の再整備及び草守基肄世界大会の開催支援などを行う。

そのことによって、基山を新たな集客拠点として位置づけ、町内の観光名所への来客数を増加させるとともに、町内散策コースの利用者の増加による町内滞在時間の延長を図り、地域の活性化を図る計画である。

【数値目標】

（単位：人）

事業	基山草スキー再生プロジェクト					
K P I	草スキー利用者	遺跡探訪参加者数	J R ウォーキング参加者数	大興善寺入園者数	草守基肄世界大会参加者数	年月
申請時	11,346	150	2,478	76,000	160	H29.3
初年度	12,100	180	2,800	76,000	200	H30.3
2年目	13,200	220	3,100	77,000	300	H31.3
3年目	14,400	300	3,400	78,000	350	H32.3

※草スキー利用者及び遺跡探訪参加者数の申請時の人数は、H27 年度の実績値。

5 地域再生を図るために行う事業

5－1 全体の概要

基山町の伝統的な観光資源として基山草スキーの再興を図るため、町内の観光拠点の一つとして基山草スキー場の再整備と木製そりの更新等を行う。

5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する

（１）事業名：基山草スキー再生プロジェクト

（２）事業区分：観光業の振興

（３）事業の目的・内容

（事業の目的）

草スキーを新たな視点で観光コンテンツとして育成していくため、草スキー場の再整備を行うとともに、アクセス道路の改善については、基山町の発展に向けた交通ネットワークの整備として、基山PAと北西部にある基肄城跡、基山（きざん）と中心市街地を接続する道路網を、観光客が周遊するための道路ネットワークの整備を行うなど、他の事業との相乗効果を図ることによって町の活性化・産業振興を図ることを目的とする。

（事業の内容）

草スキー場（全体約2ha）の整備については、草スキーを実施しながら荒れている草スキー場の草の養生を年度ごとに区画を定めて行うこととし、3ヶ年間（単年度70アール程度）で行う。更に幼児に対応したコースやロングコースなど新たな魅力あるコース設定を行う。

また、環境整備として、老朽化している木製そりの更新を行う。

あわせて、平成28年度は基山町が主催となって開催した草守基肄世界大会を、翌年度以降は基山町観光協会の事業と位置づけ定額の運営費を助成することで、基山草スキーを観光事業の一つとして定着を図り、情報発信と集客を積極的に行うことで、基山・基肄城への来訪者の増加を図る。

→各年度の事業の内容

基山草スキー再生プロジェクト

初年度）草スキー場の再整備、草守基肄世界大会運営補助、木製そりの更新

2年目）草スキー場の再整備、草守基肄世界大会運営補助

3年目）草スキー場の再整備、草守基肄世界大会運営補助

（４）地方版総合戦略における位置づけ

基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、農林業、商業、観光業などの業種の壁を超えた連携体制を構築し、まちのにぎわいにつなげていくこととして観光資源活用プロジェクトを掲げている。本事業は、基山町の歴史的な観光資源である基山（きざん）、基肄城跡、基山草スキー場を観光拠点の一つとして位置づけ、その再生を図り、他の観光資源とのアクセスを改善するとともに、町内で行うイベント等を積極的に活用することで、観光と連動した特産品等の販売促進を図り、地域ブランドの確立や魅力ある観光地域づくりを目指すこととしており、総合戦略の具体的なKPIである「回遊コース上の出店店舗数（10店舗（H31年度）」の達成に直接寄与す

るものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

（単位：人）

事業	基山草スキー再生プロジェクト					
KPI	草スキー利用者	遺跡探訪参加者数	J R ウォーキング参加者数	大興善寺入園者数	草守基肄世界大会参加者数	年月
申請時	11,346	150	2,478	76,000	160	H29.3
初年度	12,100	180	2,800	76,000	200	H30.3
2年目	13,200	220	3,100	77,000	300	H31.3
3年目	14,400	300	3,400	78,000	350	H32.3

※草スキー利用者及び遺跡探訪参加者数の申請時の人数は、H27年度の実績値。

(6) 事業費

（単位：千円）

基山草スキー再生プロジェクト	年度	29年度	30年度	31年度	計
	事業費計	5,500	3,500	3,500	12,500
区分	工事請負費	3,000	3,000	3,000	9,000
	負担金、補助及び交付金	500	500	500	1,500
	備品購入費	2,000			2,000

(7) 申請時点での寄附の見込み

年度	H29		計
法人名	描画装置製造業	屋外照明灯製造業	
見込み額（千円）	200	200	400

(8) 事業の評価の方法（PDCA サイクル）

（評価の手法）

事業の KPI について、基山町まち・ひと・しごと創生推進会議により事業結果を検証し、改善点を踏まえて事業手法を改良することとする。

（評価の時期・内容）

毎年度3月末時点の KPI の達成状況や効果などについて、事業実施担当課が確認し、外部有識者等により構成された基山町まち・ひと・しごと創生推進会議により検証のうえ、次年度以降の施策にフィードバックする。

（公表の方法）

目標の達成状況については、検証後速やかに基山町ホームページ、情報公開コーナーにて公開する。

(9) 事業期間

平成29年4月から平成32年3月まで

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 観光地の魅力向上（来街者の増加・町内滞在時間の延長の取組み）

内 容 基山町にある大興善寺、基肆城跡、荒穂神社など神話から古代の由緒ある観光資源を散策ルートで繋ぎ、観光サイン事業や4か国語による観光案内のHP、映像コンテンツを複合的に結び付けて世界に発信することで、一年を通じてインバウンドを含めた観光客の呼び込みを推進する。

特に、基山（きざん）草スキー場を新たな集客拠点して機能させるため、昨年度から実施している「草スキー世界大会」の定着による草スキー利用者の増加を図る。

また、本年度誘致した「摘み取りライチ」による観光農園（平成31年度開園）を核とした観光農業の定着や、開祖1300年を迎える大興善寺と連携した新たな集客イベントを行う。

（地方創生加速化交付金事業「魅力ある空間形成プロジェクト」等）

実施主体 基山町・基山町商工会・基山町観光協会

実施期間 平成28年度～平成31年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業のKPIについて、基山町まち・ひと・しごと創生推進会議により事業結果を検証し、改善点を踏まえて事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度（7月予定）に外部有識者等により構成された基山町まち・ひと・しごと創生推進会議による効果検証を行い、次年度以降の取組方針を決定する。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに基山町ホームページ、情報公開コーナーにて公開する。